

# 定例教育委員会会議録

(令和8年2月6日開催)

岡谷市教育委員会

# 定例教育委員会【議事録】（要点筆記）

日 時 令和8年2月6日（金）9時30分～

場 所 市役所6階 605会議室

署名委員 太田教育長職務代理者、藤森教育委員

## 【次 第】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. ウェルビーイング実践校（TOCO-TON）の取り組みについて【資料No.1】（教育総務課）
2. 文化財保護審議会の委員の承認について（非公開）【資料No.2】（生涯学習課）

### ○ 報 告

1. 川岸学園整備事業について【資料No.3】（川岸学園整備室）
2. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第1回常任委員会について【資料No.4】（国スポ・全障スポ推進室）
3. 岡谷市議会12月定例会一般質問要旨について【資料No.5】（各課）

### ○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

## 出席委員

教育長 宮坂 享、教育長職務代理者 太田 博久、教育委員 藤森 一俊、  
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒

## 事務局（説明員）

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、  
教育総務課主幹指導主事 村松 晋  
生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、子ども課課長 高橋 卓  
指導主事（ウェルビーイング実践校）井出 誠一、  
教育総務課 教育企画主幹 西山 壘、学校教育主幹 新村 尚志、  
子ども課保育主幹 小口 和久、  
国スポ・全障スポ推進室 国スポ・全障スポ推進主幹 井岡 雅彦  
教育総務課 主事 渡辺 凱

## <会議録>

### ○開 会

宮坂教育長

2月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、太田教育長職務代理者、藤森教育委員にお願いします。

### ○教育長報告

宮坂教育長

2月3日に立春を迎え、季節は冬から春へと移り変わりつつある。各地で梅の便りも聞かれる一方、東北地方などでは雪の被害もあり心配される場所である。

#### (1) 子どもたちの姿から

##### ① 川岸小学校仮設校舎について

川岸小仮設校舎での子どもたちの生活が始まり、新しい教室で当たり前の学校生活を送る姿が見られている。川岸学園 NEWS でも紹介されているように、3つ（旧校舎、仮設校舎、新校舎）の校舎で過ごす経験の良さを子どもたち自身が感じている様子がうかがえる。また、小学生と中学生が隣り合って生活する環境により、小中連携や異学年交流が進んでいることも大きな意義である。

##### ② 社会を明るくする運動の作文表彰について

市内小中学生合計 26 点の受賞入賞等があった。また機会があったら、お読みいただきたい。

##### ③ 立会演説会

小中学校では次年度に向けて児童会・生徒会の引き継ぎが進み、立会演説会や投票が活発に行われている。岡谷田中小学校では、会長候補が「全校が笑顔になれる学校」「自分らしさを発揮できる学校」といった目標を掲げて堂々と発表しており、聞く児童の姿勢も大変良好であった。来年度への期待が高まる。

##### ④ 全中スケート大会出場中学生 8 名の表敬訪問

全中スケート大会ではスピード種目が終了し、現在はスキー種目が始まっている。岡谷市内からは中学生スピードスケート 7 名、フィギュアスケート 1 名が出場し、表敬訪問を行った。それぞれが力強く意気込みを語り、晴れやかな表情で臨む姿が大変印象的であった。

##### ⑤ うなぎ給食について

2月3日に上の原小学校で市長とともにうなぎ給食に参加した。6年生の人懐っこい姿に触れる良い機会となった。また、市長も地域の子どもたちと交流し、大変有意義な時間であった。

#### (2) 生涯学習課から

岡谷市では、版画家・武井武雄が有志とともに創設した双燈社版画部会を契機に版画教育が広まり、その伝統は現在も市内小学校で受け継がれている。岡谷美術考古館では、版画教育の取り組みと版画の魅力を広く伝えるため、毎年「岡谷市内小学校児童版画展」を開催している。

本年度は応募 89 点の中から、市教育長賞・美術考古館長賞各 1 点、優秀賞 10 点に加え、新設のデザイン賞・アイデア賞・技能賞計 18 点を選出した。審査においては、作品の多様性と全体的なレベル向上が感じられた。表彰式は 2 月 8 日に行われ、版画展は 2 月 22 日まで開催されているのでご覧いただきたい。

#### (3) スポーツ振興課から

岡谷市スポーツ協会主催の「スポーツ体験発表会」が 2 月 1 日に諏訪湖

- 宮坂教育長           ハイツで開催され、今回で3回目となった。小中学生7名がスポーツを通じて得た体験や思いを発表し、多くの聴講者が熱心に耳を傾けた。
- 発表からは、目標に向かって努力を続けることの大切さや、支えてくれる人や仲間への感謝の気持ちが強く伝わってきた。仲間同士の支え合いなど、スポーツを通じて育まれた人間性も印象的であった。
- 本発表会は、発表者だけでなく聴講者にとっても共感と希望を与える貴重な機会であり、参加した7名の今後の成長と活躍が期待されるとともに、開催を支えた関係者へ深く感謝の意を表したい。
- 太田教育長 職務代理者       版画教育は私たちの世代から伝統的に行われているが、その希少性や県内・全国での位置付けについては正確に把握していないため、分かる範囲で教えていただきたい。
- 宮坂教育長           版画は教科書教材の中で全学年が取り組む位置づけである。学習指導要領で図画工作の時間は削減されたものの、岡谷市では総合的な学習の時間や生活科と連携させ、刷る楽しみも含めて継続している。教材の進化により机上で刷ることも可能となったが、基本的には全国の小・中学校と同様に実施されており、岡谷市では特に伝統として脈々と継承されている。

## ○議 題

### 1. ウェルビーイング実践校（TOCO-TON）の取り組みについて

<ウェルビーイング実践校（TOCO-TON）の取り組みについて、事務局より No. 1 に基づき説明>

- 太田教育長 職務代理者       岡谷市の学校教育における本取り組みは非常に大きなテーマであり、改めてその意義と可能性の大きさを強く感じた。本年度のご尽力により課題が具体化・整理され、今後の展開において心強い状況となっている。教育において大人が教える立場だけでなく、子ども自身が答えのない問いに主体的に向き合い、学校を作り変えていく経験はウェルビーイングにもつながる。こうした取り組みは、従来の教育観念のみに依存する社会問題の要因を見直す契機ともなり、学校教育の地殻変動ともいえる変化をもたらすものである。
- 小平教育委員           岡谷市の各校では、子どもたち自身がルールを作るなど主体的な取り組みが進んでおり、井出先生のご尽力により事業の方向性が具体化されつつある。現代の子どもたちは正解のない問題に向き合い、自ら答えを導く力が求められる時代にあり、従来の均一化や団体行動の習慣は創造性の制約となる場合もある。そのため、自由な発想や個々の体力・能力に応じた環境づくりが重要であり、子どもたちのアンケート結果は学校運営や教育環境改善の貴重なヒントとなる。今後、岡谷市の学校現場での変化や発展が期待される一方、コミュニティスクールにおける人材発掘や中学校での適切な支援体制の構築は課題であり、どのような人材が望ましいのか。
- 事務局（井出）       中学校における支援体制は全くないわけではないが、小学校に比べて体系化されておらず、単発的な対応にとどまっている。小学校では、経年の積み重ねでボランティアの役割や関わり方が自然に体系化され、次年度以降もスムーズに依頼できる枠組みができています。一方、中学校では情報の共有や連携が不十分であり、ボランティアの関与が継続的に組織化されていない。今後は、ボランティアが関わる場面を拡充するとともに、関わる人々を整理・把握し、経年的に継続して協力してもらえる仕組みを整備することが必要である。

- 小平教育委員 地域住民との関わりの促進として生涯学習課との連携は非常に重要である。市民講座などで活動する市民の知識・技能を活用し、ボランティア団体という形式にこだわらず、組織やリスト化によって中学校への出前講座などに活かすことが可能である。先生方が気づかなくても、参加メンバーは毎年変わって構わない仕組みを作ることで、柔軟かつ持続的な支援体制が整い、効果的な取り組みが期待できる。
- 林教育委員 今回の取り組みはゴールを時代に合わせて常に更新していく必要があるため非常に大変である。しかし意義は大きく、各方面からの実践や課題検証を通じて進展が見られる。その中で、保護者への周知が十分でない点が課題であると感じられる。保護者が内容や意義を理解することで、子どもを育てる環境全体がより良い方向に進む可能性がある。例えばPTA総会の場で井出先生の説明を行うなど、市民に取り組みを伝える機会を設けることでより身近に感じてもらえると思う。
- 轟教育委員 今日の丁寧な説明で内容をよく理解できた。特に興味深かったのは、井出先生も触れたウェルビーイングの実践に関するアンケート結果であり、子どもたちの率直な思いがよく表れていると感じた。アンケートでは「どんなことをやってみたいか」という問いを投げかけたもので、他の質問はあったのか教えていただきたい。
- 事務局（井出） アンケートの設問は3つである。1つ目は、「ウェルビーイングを実現するために学校でやってみたいことは」という内容であり、子どもたちには必要に応じてウェルビーイングの説明を行った。2つ目は、「どんな学校に行きたいか、また安心して過ごせる学校とはどのような学校か」という設問である。3つ目は、ウェルビーイングの実現が幸せの実現であることを説明した上で、「子どもたちにとっての幸せとは」を問うものである。今回集約して示されたのは、1つ目の「学校でやってみたいこと」に対する子どもたちの回答である。
- 轟教育委員 ウェルビーイングを考える上で、このアンケートは非常に貴重な資料であり、子どもたちの声を大切にすると感じる。一見突飛に思える要望も、例えばお昼寝は企業では効率向上に繋がるシエスタとして実践されているように、合理的な視点で捉えれば必ずしも不自然ではない。一方で、義務教育としての必要な枠組みや公立学校の現実条件を考慮すると、短期的な快適さだけを叶えることが必ずしも子どもの幸せにつながるわけではない。負荷を伴う経験も重要であり、それを通して長期的なウェルビーイングが育まれると考えられる。子ども自身もその過程で理解を深め、将来につながるウェルビーイングをどのように育てていくかを考える必要がある。
- 藤森教育委員 本取り組みは1年目であり、現状の成果や課題がテーマ別に整理されており、現状把握と今後の可能性を感じる内容である。今後はアップデートを重ねながら進める必要があるが、学校の仕組みは定期的な教職員の異動による新陳代謝があるため、新しく岡谷市に赴任する先生方にも都度理解してもらい、一緒に取り組むことが重要である。さらに、新しい風を取り入れつつも、全体構想の整合性を維持し、ぶれずに持続させることが求められる。年度の変わり目にあたって、取り組みに対してどのようなことを考えているのか教えていただきたい。
- 事務局（井出） 学校現場では校長をはじめ教職員の異動が頻繁にあるため、取り組みの継続は大きな課題である。その中で、各学校の特徴的な取り組みは、学校

づくりの理念や目指す方向を具体化したものであり、例えば私服 week も理念に基づく具体的施策の一つである。こうした具体的な取り組みを共有することで、「なぜこの活動を行うのか」「これによって学校がどう変わるのか」といった理念を理解・浸透させることができる。各学校がこの逆説的なプロセスを通じて理念と実践を結びつけ、推進していくことが望ましいと考える。

藤森教育委員

企業経営と同様に、学校づくりでもまず大きな理念があり、その下で目的や手段は多様でよい。しかし、「何のために行うのか」という理念はぶれずに共有されることが重要である。理念は時とともに柔軟に変わり得るが、全体で共通理解を持ち、それぞれの具体的な取り組みが進むことが理想である。この理念の一貫性と共有を保ちながら、持続可能な構想として学校教育に反映させる取り組みを引き続き推進してほしい。

宮坂教育長

議題1 ウェルビーイング実践校（TOCO-TON）の取り組みについて、以上とします。

今年度から始まった「おかやのまちじゅう学園化構想」は、井出先生とともに進められている。来年度は2年目となり、引き続き子ども一人ひとりが「とことん」追求できる学びの基盤を整えるため、教育委員会全体で取り組んでいく。

## 2. 文化財保護審議会の委員の承認について（非公開）

### ○ 報 告

#### 1. 川岸学園整備事業について

<川岸学園整備事業について、事務局より No. 3 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

#### 2. 国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第1回常任委員会について

<国スポ・全障スポ岡谷市実行委員会第1回常任委員会について、事務局より No. 4 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

#### 3. 岡谷市議会12月定例会一般質問要旨について

<岡谷市議会12月定例会一般質問要旨について、事務局より No. 5 に基づき説明>

<質疑・意見等>

特になし。

### ○その他

#### ・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

- その他

- 次回定例教育委員会日程

令和8年3月9日（月）午前9時30分から市役所6階605会議室を予定

11時10分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 8 年 3 月 9 日

教 育 長

宮坂 享

署 名 委 員

太田 博久

署 名 委 員

藤 森 一 俊

調 製 職 員

白 土 淳